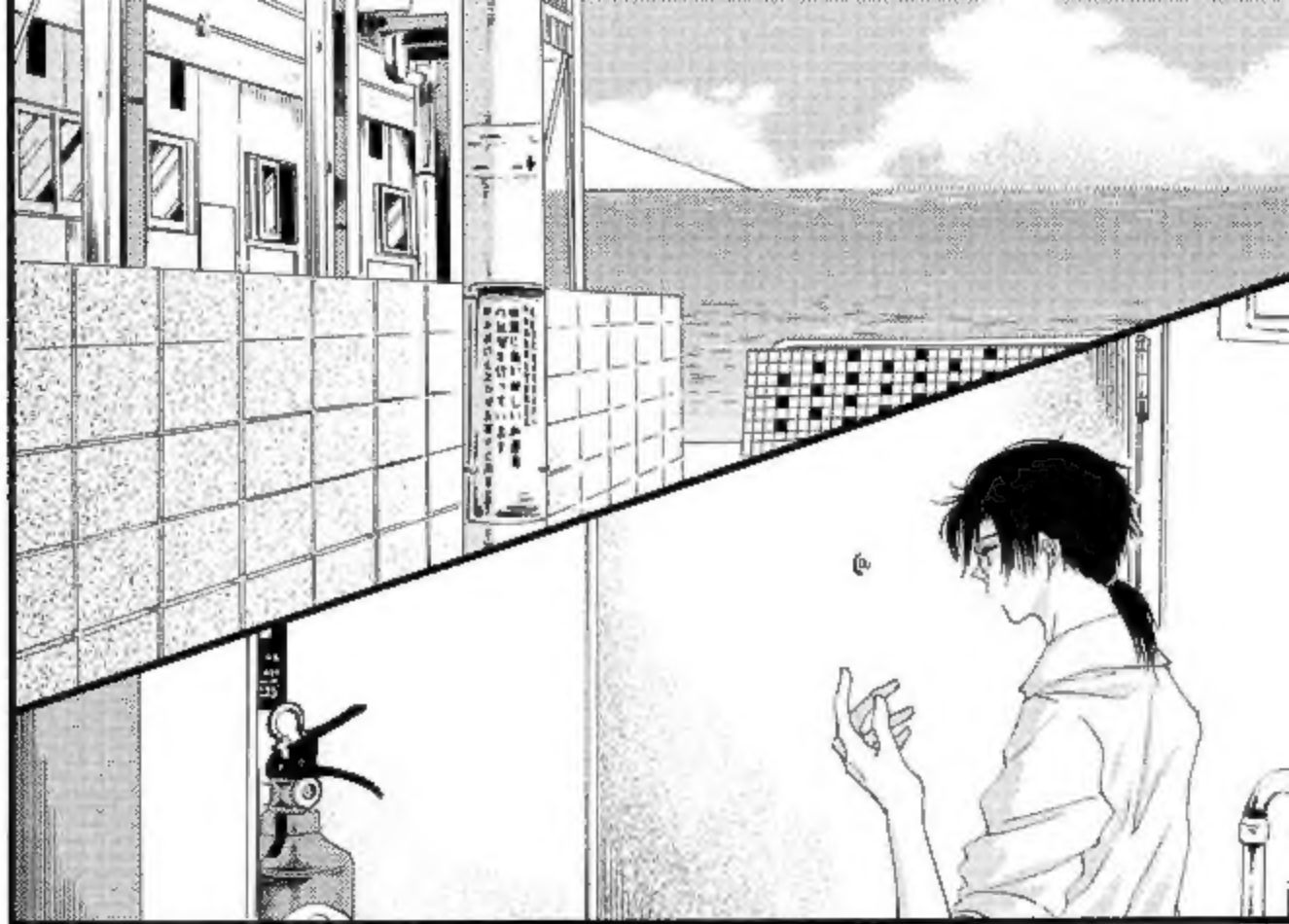
私は　清いものだけ見ていたい
それで　何かを失うとしても――。
幼少期のトラウマのせいで性愛に潔癖な少女・砂帆。
しかし、彼女の胸に広がりはじめた感情が、
大切にしてきた自身の純白な世界、
そして、純粋の象徴である小説の作者であり
いとこの汐との世界を侵食しはじめる…。
あらすじ
いとこの汐が書いた小説『海と耽溺』を溺愛している少女・砂帆。
相手に触れずに恋をする小説の主人公を自分の理想としていたが、
汐と自分が関係を持っているイメージが頭の中にかけめぐり…。
一方、汐もある想いを抱えていた…。
ひるのつき子
海と耽溺
後篇

☆この物語はフィクションです。実在の人物・団体・事件などとは関係ありません。

渚
来てたのか
出不精のくせに
わざわざ外に
出たりして
あれから私のこと
避けてるでしょ

砂帆ちゃんに見られたの そんなに嫌だった？
大きくなってお母さんそっくりになったものね？ まるで本人みたいに
…でも どんなに似てたって
砂帆ちゃんは美帆さんの代わりにはならないわ
それに わかってるわよね あの子は17も離れたいとこだってこと
汐

あなた
もう
いい大人なのよ
変な気は
起こさないで

あはは
まじかよ
信じらんねー
見間違いじゃないの？
ガシャン

……？

ザワ

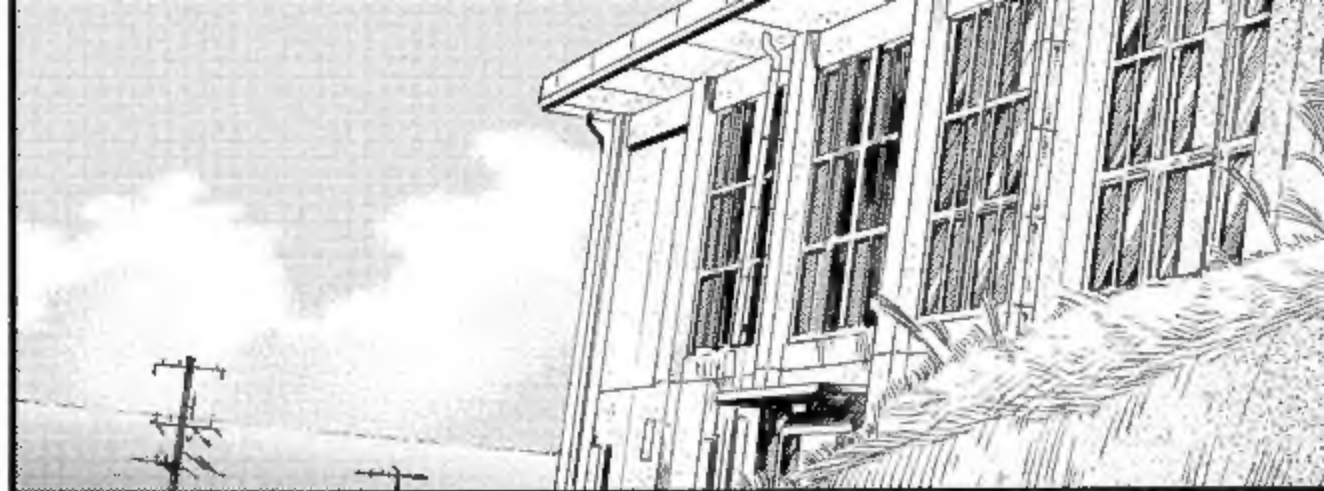
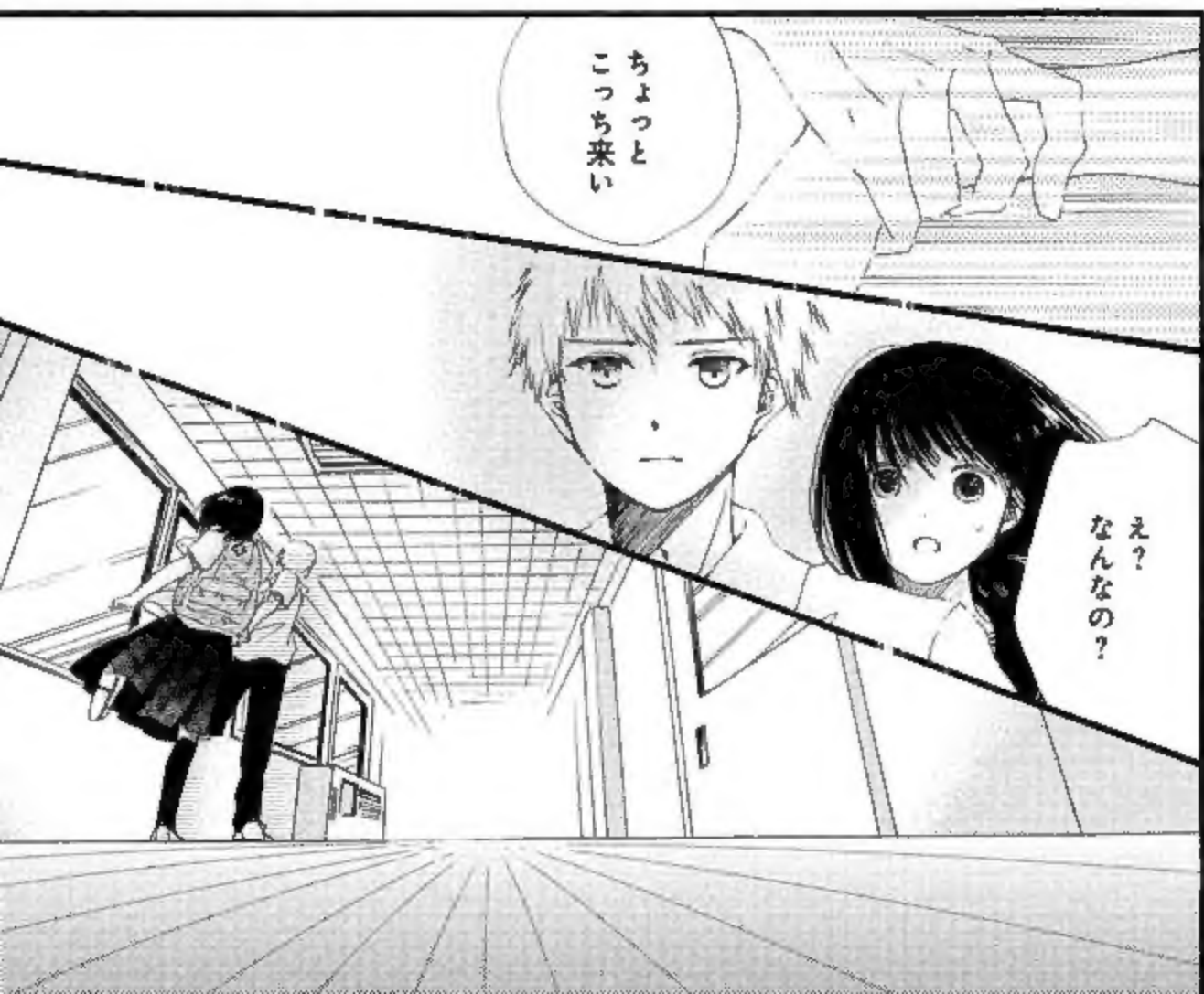
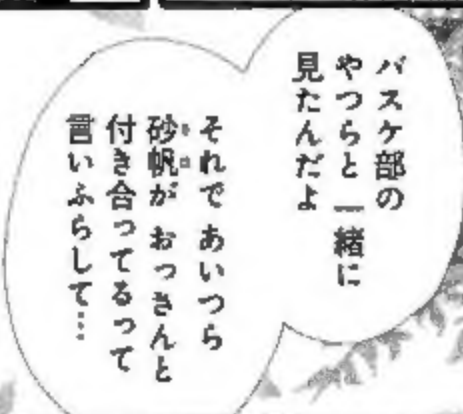
ザワ

ザワ

ねー
蒼乃さん
なんか
男子がねえ
おじさんと…

砂帆

ちょっと
こっち来い

え？
なんなの？

……ねぇ
どういうこと？
何があったの？
…おまえ
昨日
男と一緒に
いただろ
バスケ部のやつらと一緒に見たんだよ
それであいつら砂帆がおっさんと付き合ってるって言いふらして…
ミーン
ミン
ミン…
……なにそれ
私と汐おじさんはそんなんじゃないのに
……
どうだか
え？

おまえ あの時
自分がどんな顔
してたのか
わかってないだろ
もう 今にも
あのおっさんに
抱きつきそうな
そんな顔
してた
…やめてよ
勝手に
決めつけないで
航太郎には
私の気持ちなんて
わからない…
わかるよ
小さい時から
おまえを知ってるんだから
それくらい
わかるよ

ビクッ

…はは

ほらな
オレが言ってること
合ってんだろ

…違う

え？

そんなんじゃ
ない

だって
私

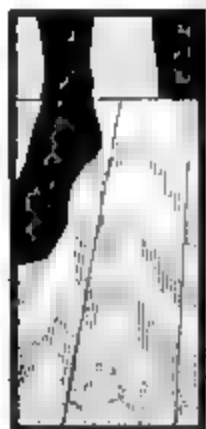
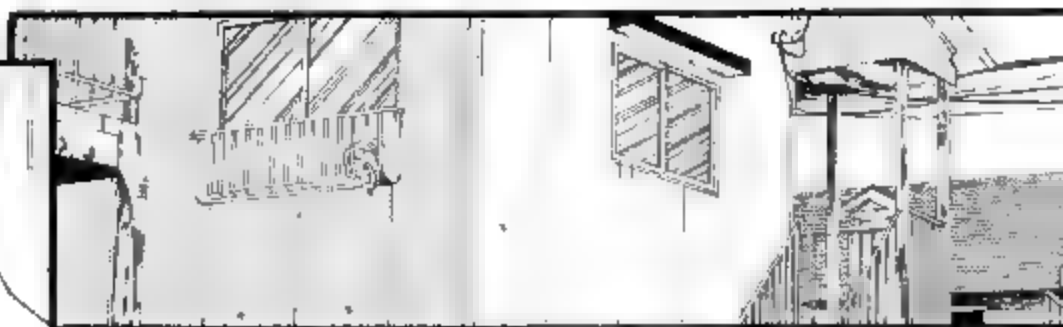
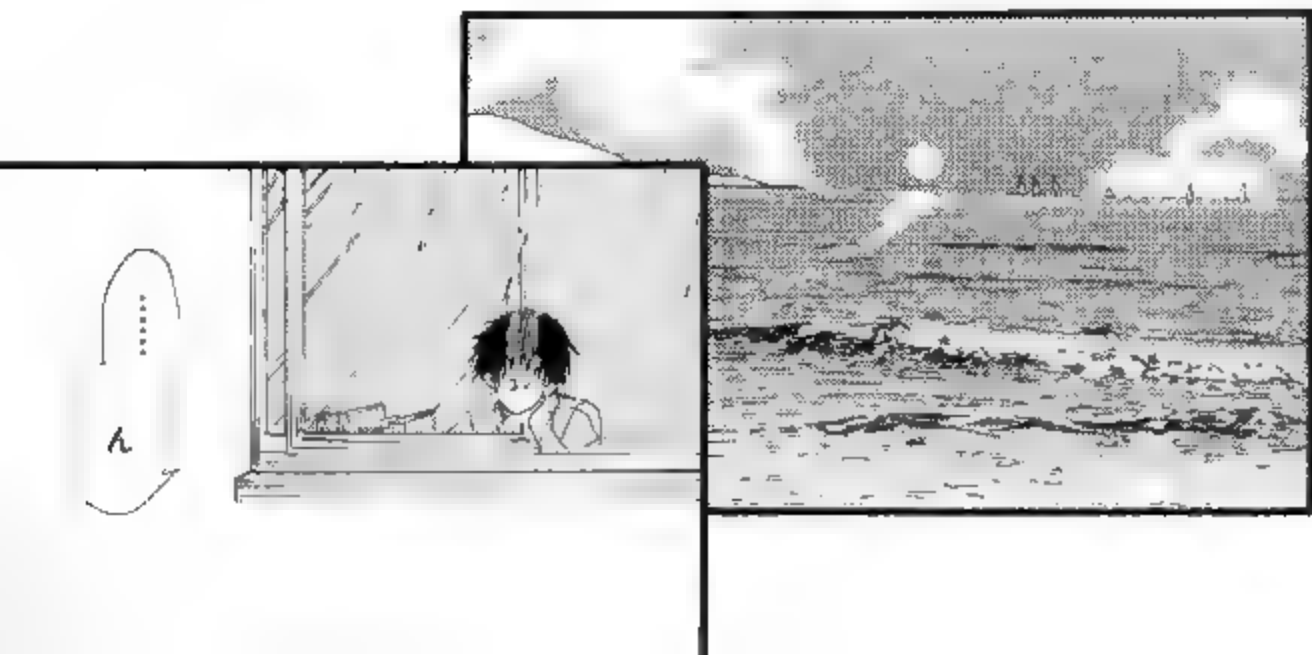
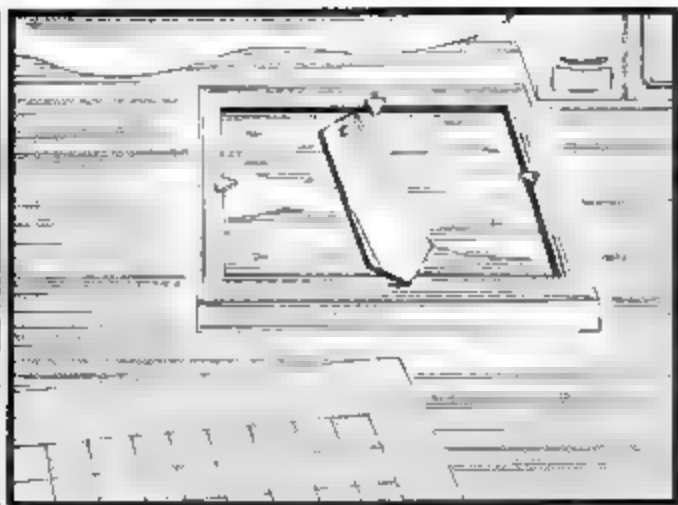
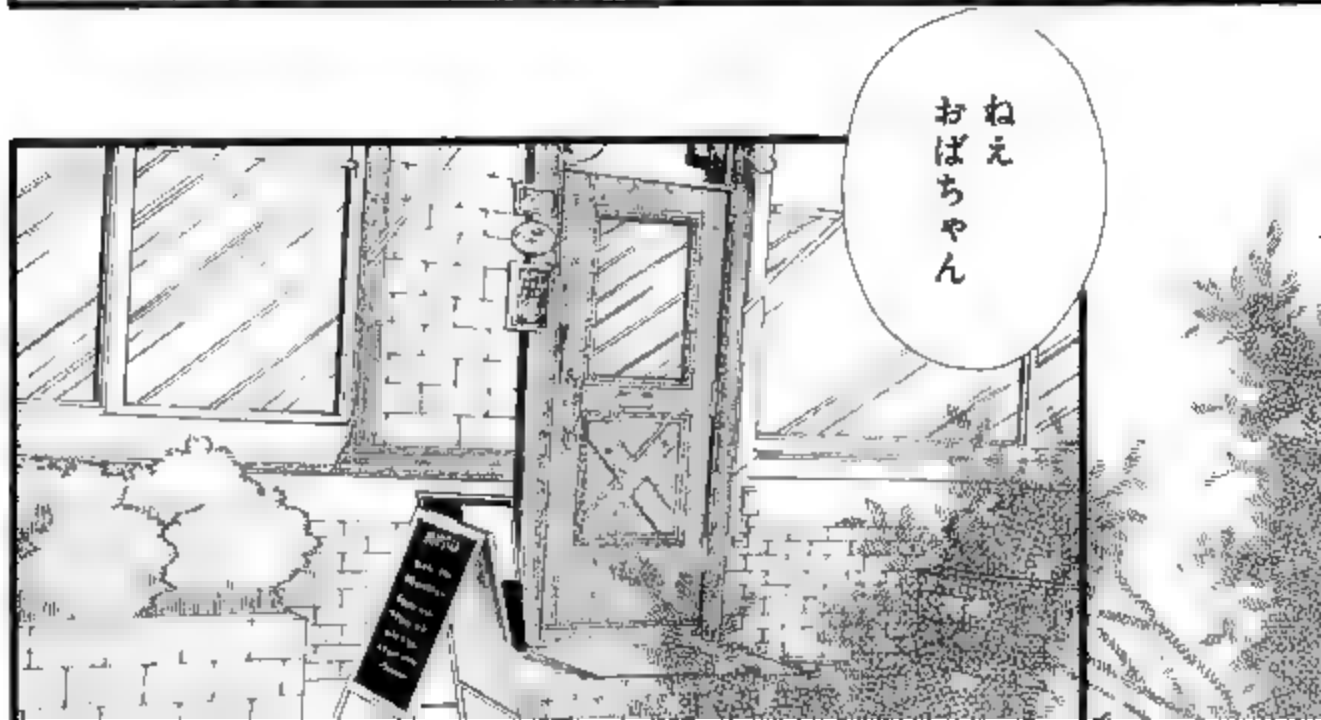
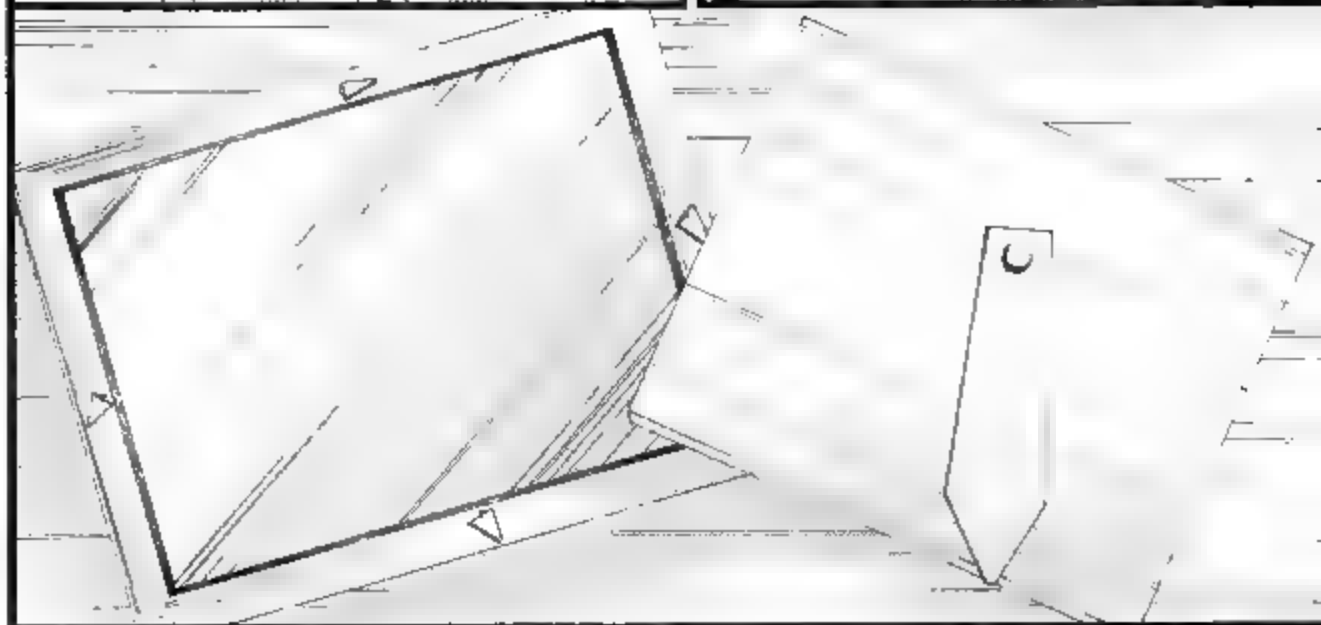
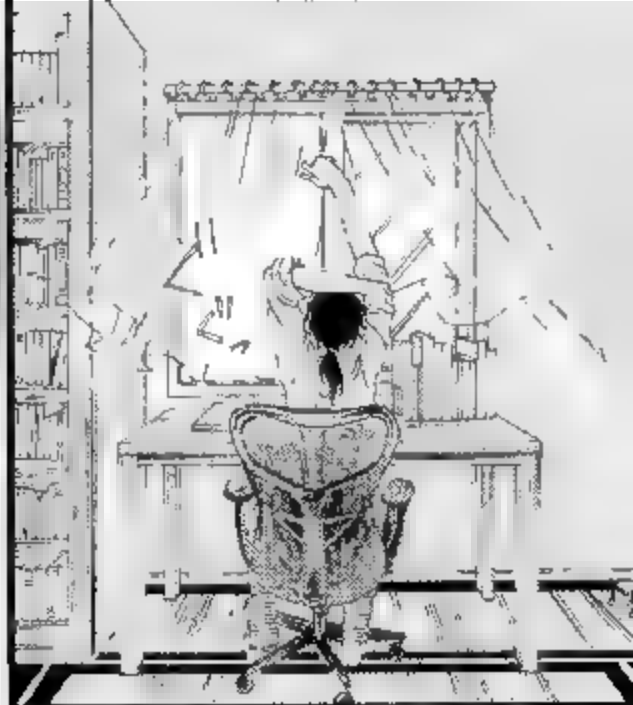
お父さん お母さん ごめんなさい

ごめんなさい

砂帆（さほ）

ごめんなさい

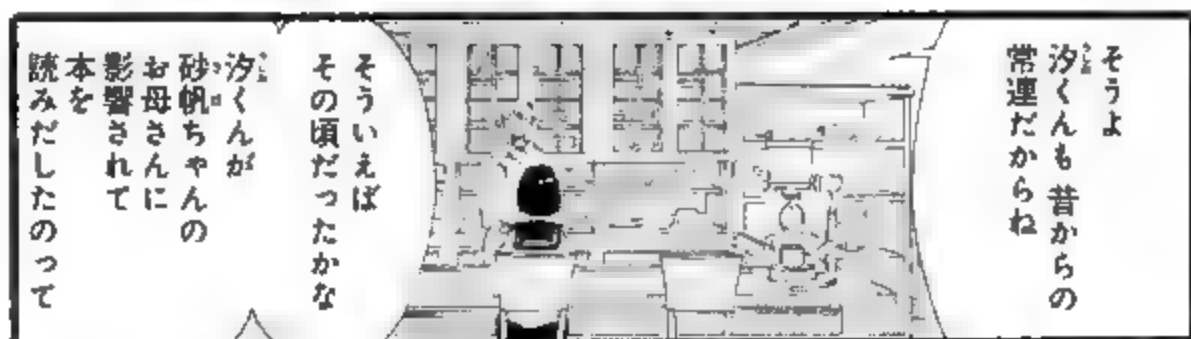
…辛くなったら
今までみたいに
家に来ればいい
ガチャ
汐おじさん？

…寝てるの？

美帆さん…
え…
なんで
お母さんの名前を…
海と吮湖
人妻を
好きになる
男の話なんて
あの人ね
ずーっと
片想いしてるの

……

……ん

ねえ
おばちゃん

それまでは
本を読んでる姿なんて
見もしなかったのに

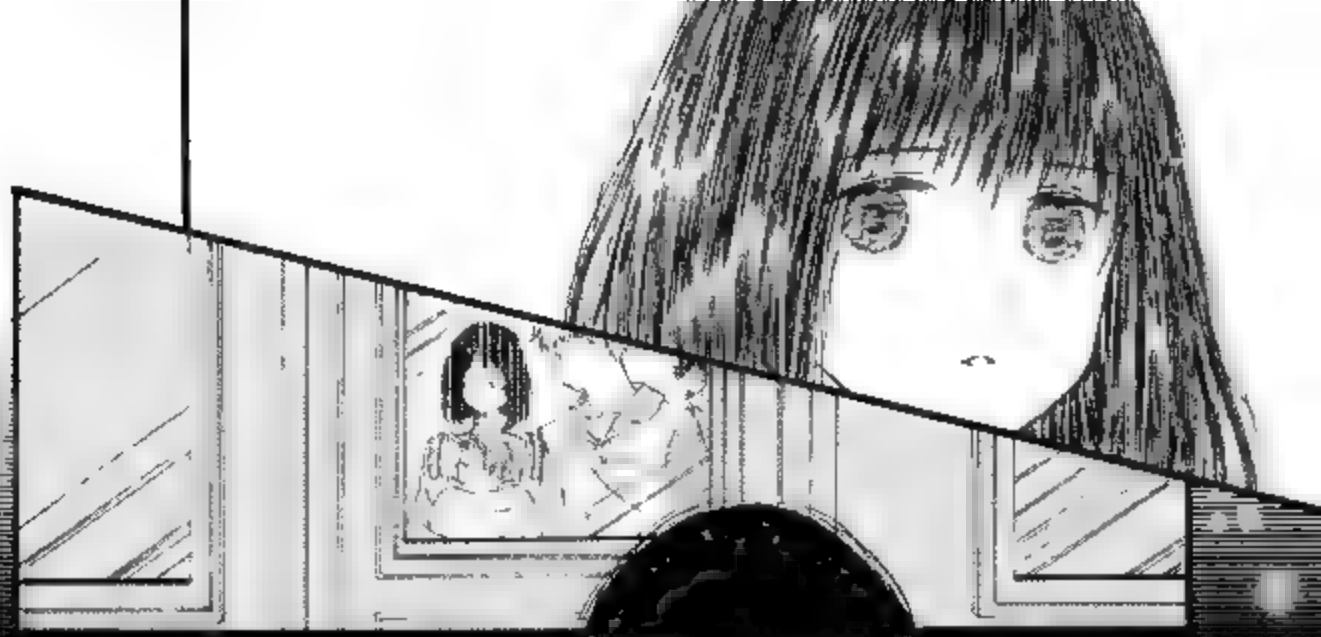
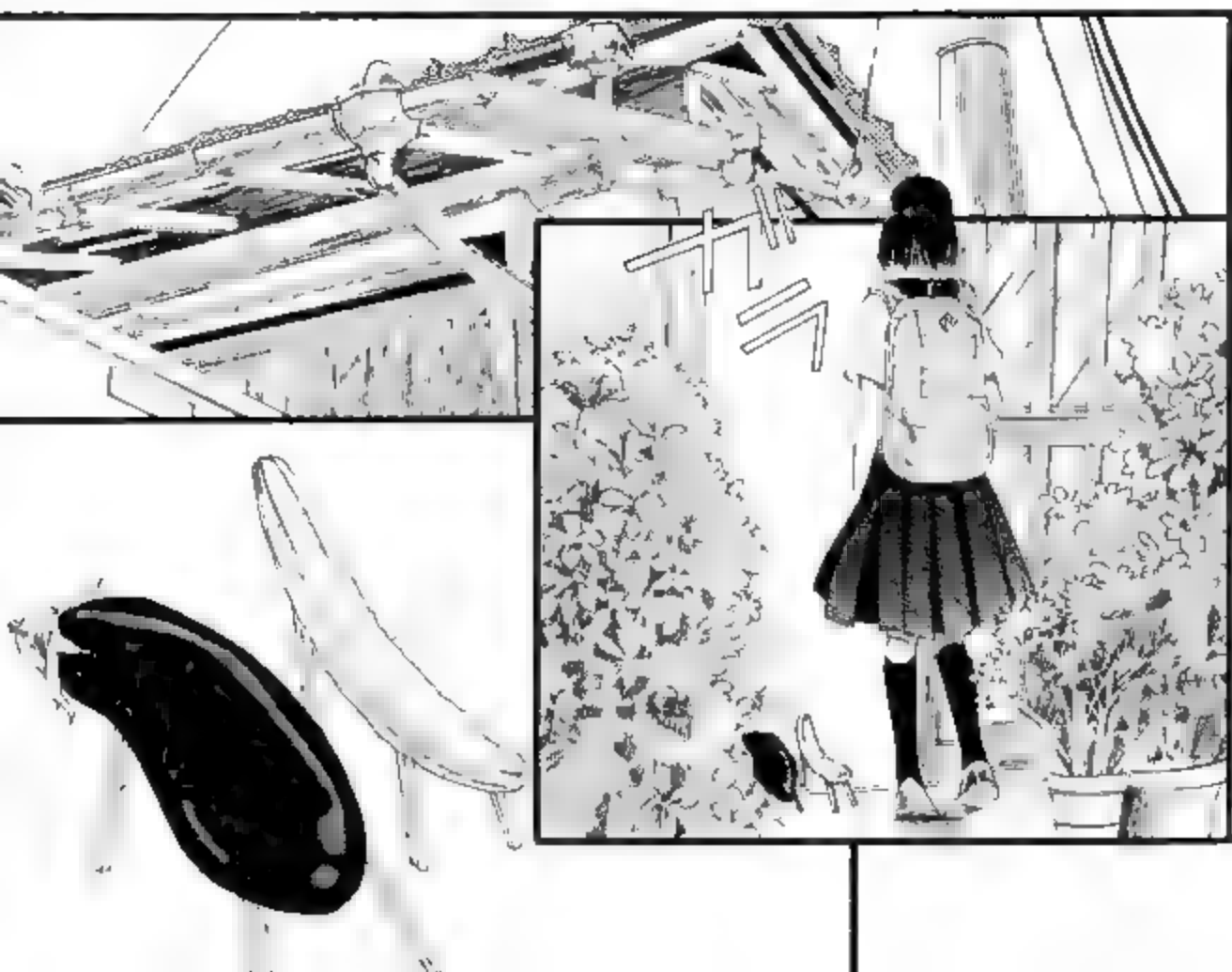
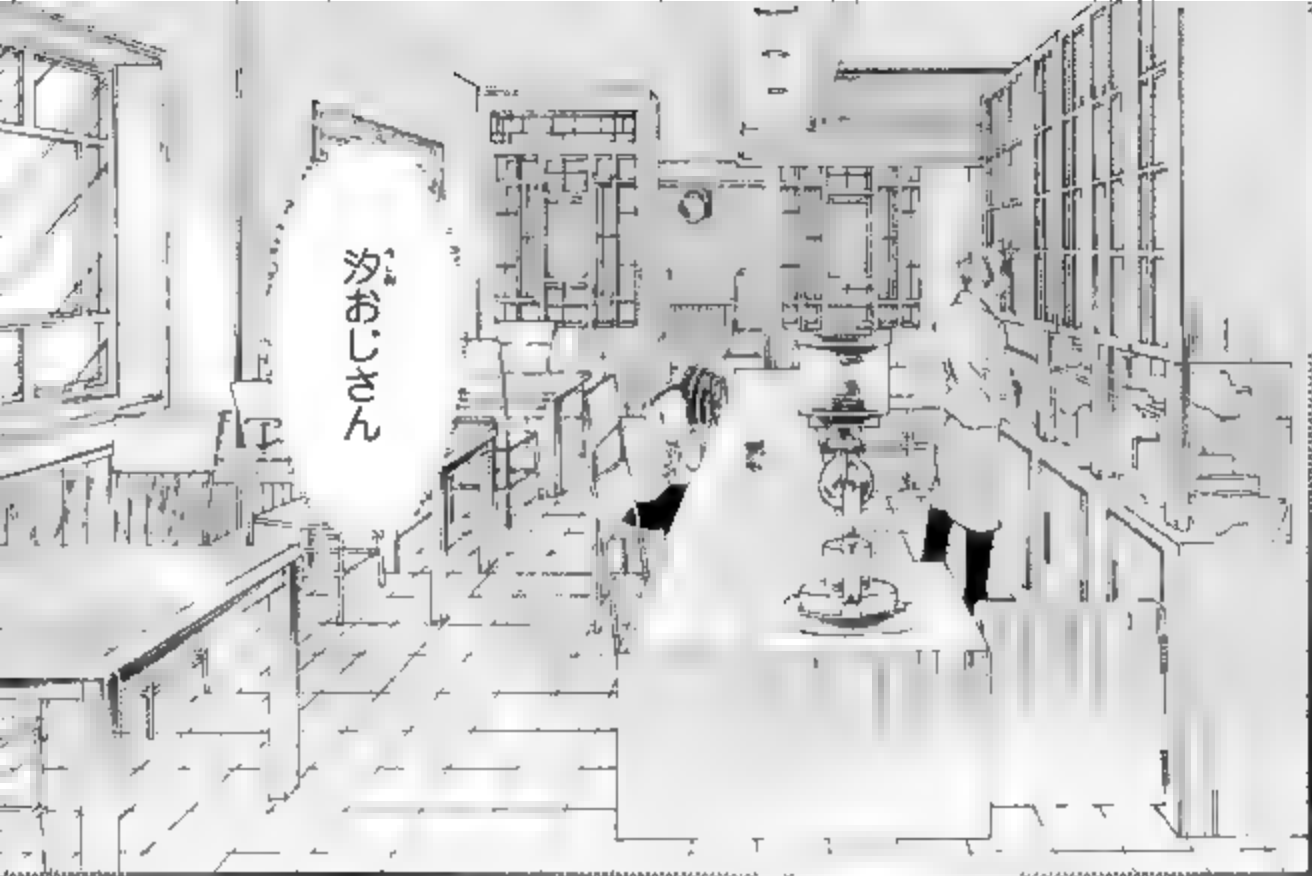
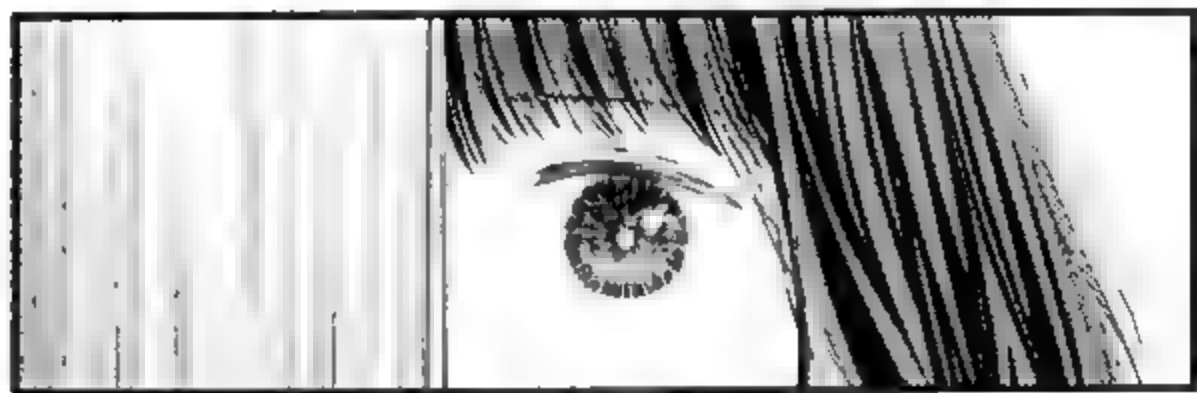
一気に
ハマっちゃった
みたいで

ちょうど
今の砂帆ちゃんと
同じ位の歳だったかしら

なつかしいわ

汐おじさん

ガラ

砂帆ちゃん
何があったの？
無断欠席したって
さっき学校から連絡が…
…
砂帆ちゃん!!
今は話せなくてもいい
でもいつか話してちょうだい
おばちゃん待ってるから

〝相手に触れることもせずに
ただひたすら恋焦がれる綺麗な恋愛物語〟

触らないんじゃない
触れなかったんだ……
明日は盆明け
お父さんとお母さんが
向こうへ帰る日
ザザ
ザザァァァ

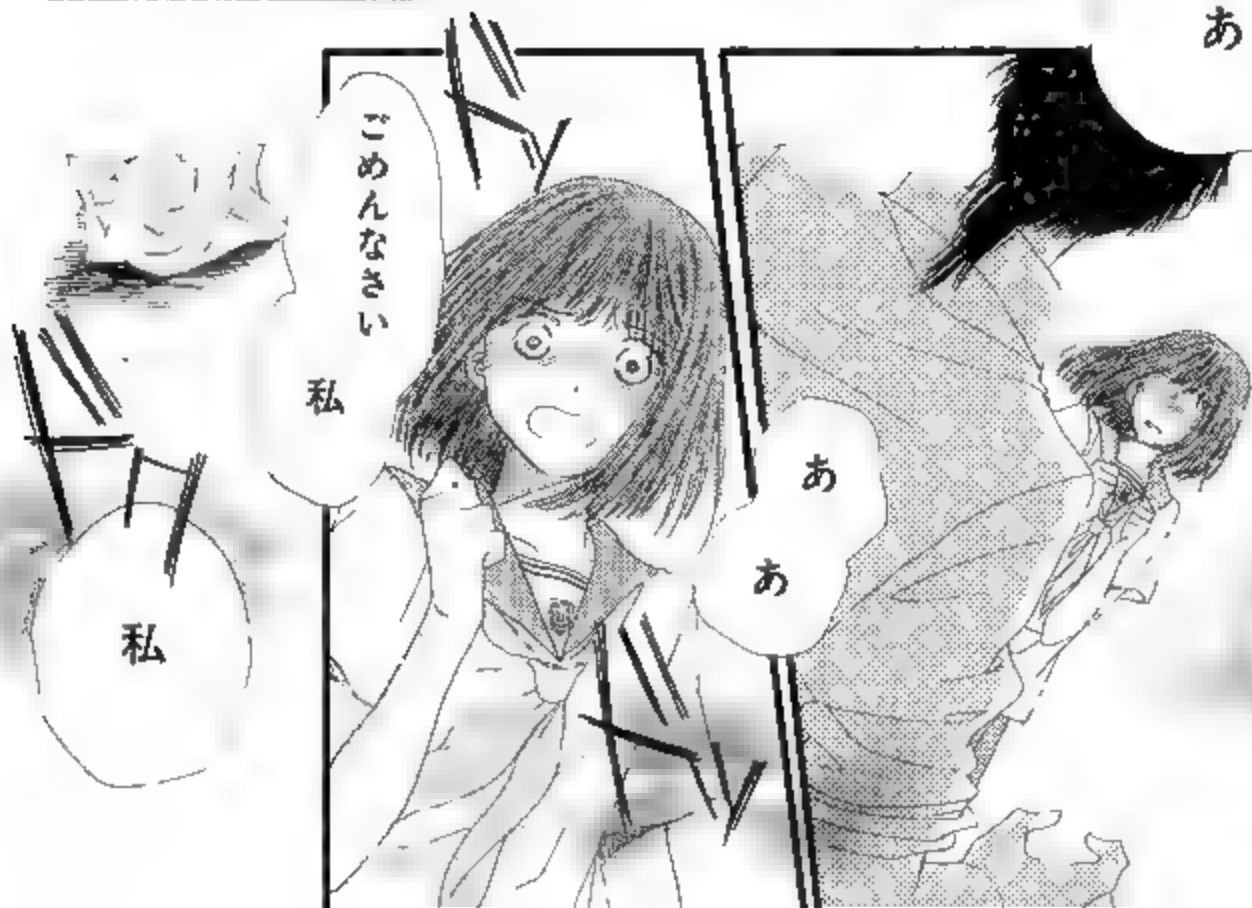
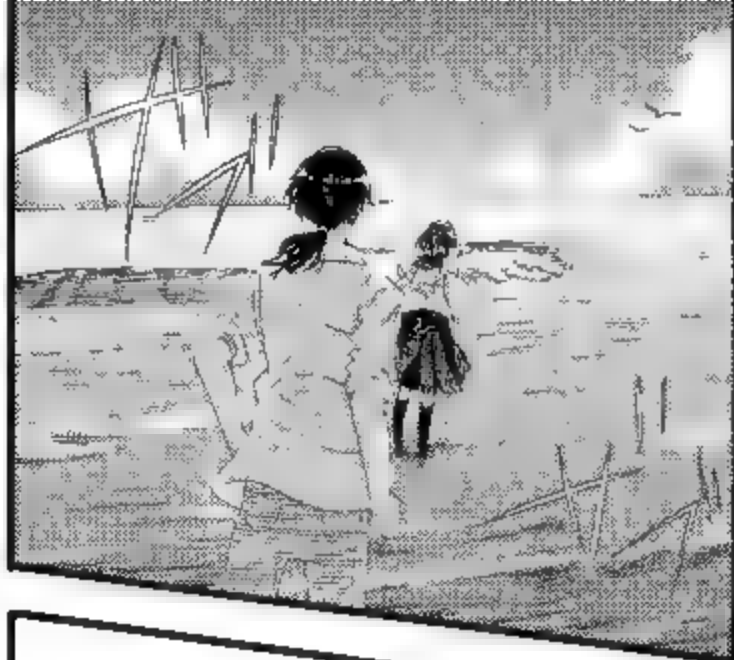
この写真
返さなきゃ…
砂帆
……
その写真…
おまえが
持ってたのか…
―どうして
こんなことしたんだ
あ
う

う…
汐おじさんは
お母さんのことが好きだったの…？
だったらなんだ
……今でも？
…そんなのどうだっていいだろ
その写真をよこせ
どうでもよくない

あ
写真が

何やってるんだ
だって…
だって
汐おじさんの
大切な
写真が…
ばかやろう

そんなもん
どうだっていい
おまえにまで
死なれたら…
困るんだよ
汐おじさん

好き
あ
ごめんなさい
私
あ
あ
私

砂帆
ザァ
砂帆
戻ってこい

もう
戻れないよ
砂帆!!
これ以上
ごまかせない

夕、おしさんが
好き
どうしようもなく
好き

汐おじさんが好きなのはお母さんだってわかってる
でもいいの
だって
私はここにいる

汐おじさんが
私の心に
触れたように

私が
汐おじさんの心を
動かすことだって
あるはずだわ

汐くん

汐おじさん

ただいま

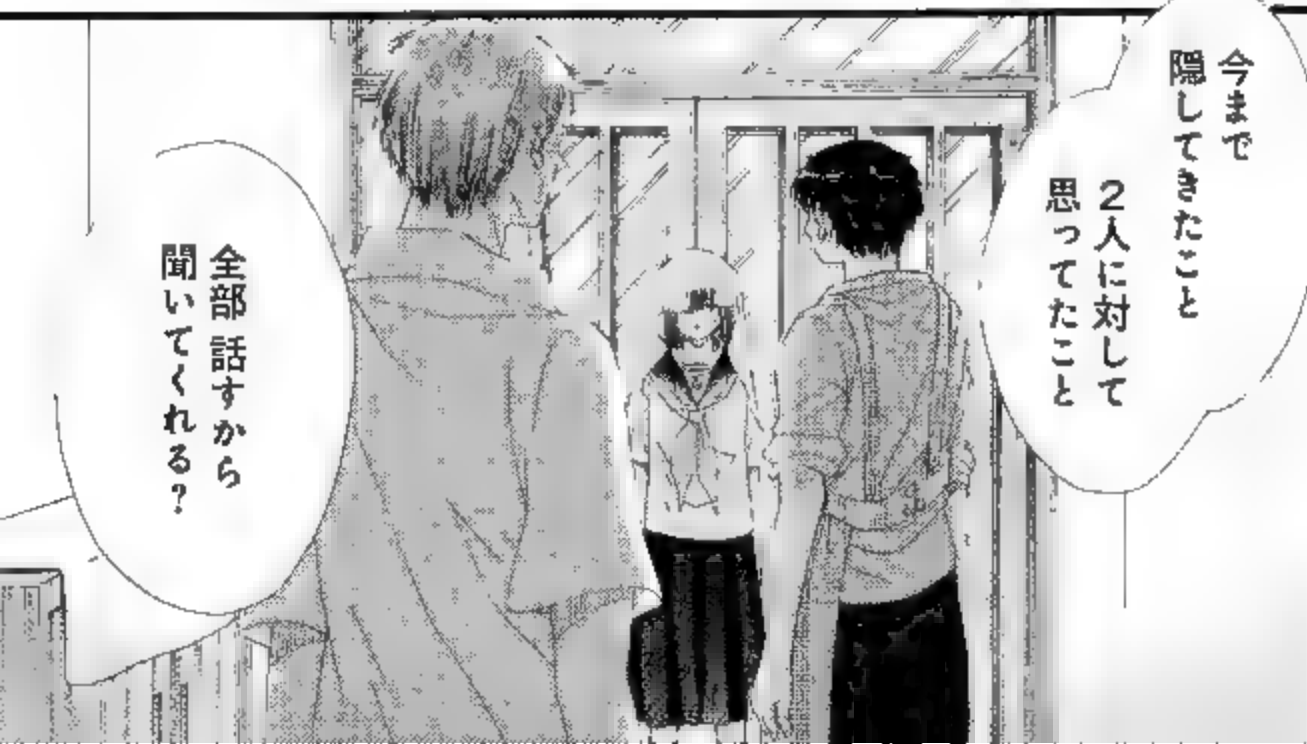
砂帆ちゃん どうしたの!? そんな ずぶぬれになって

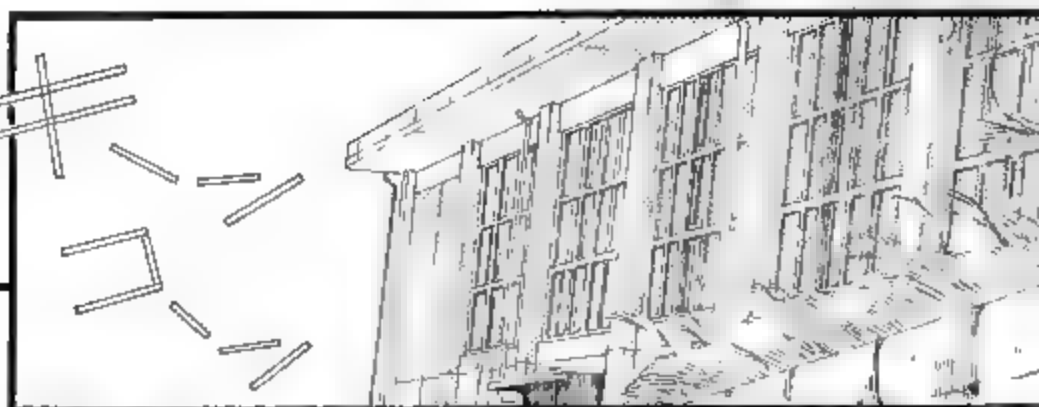
ほら タオルで ふいて

ゴシ

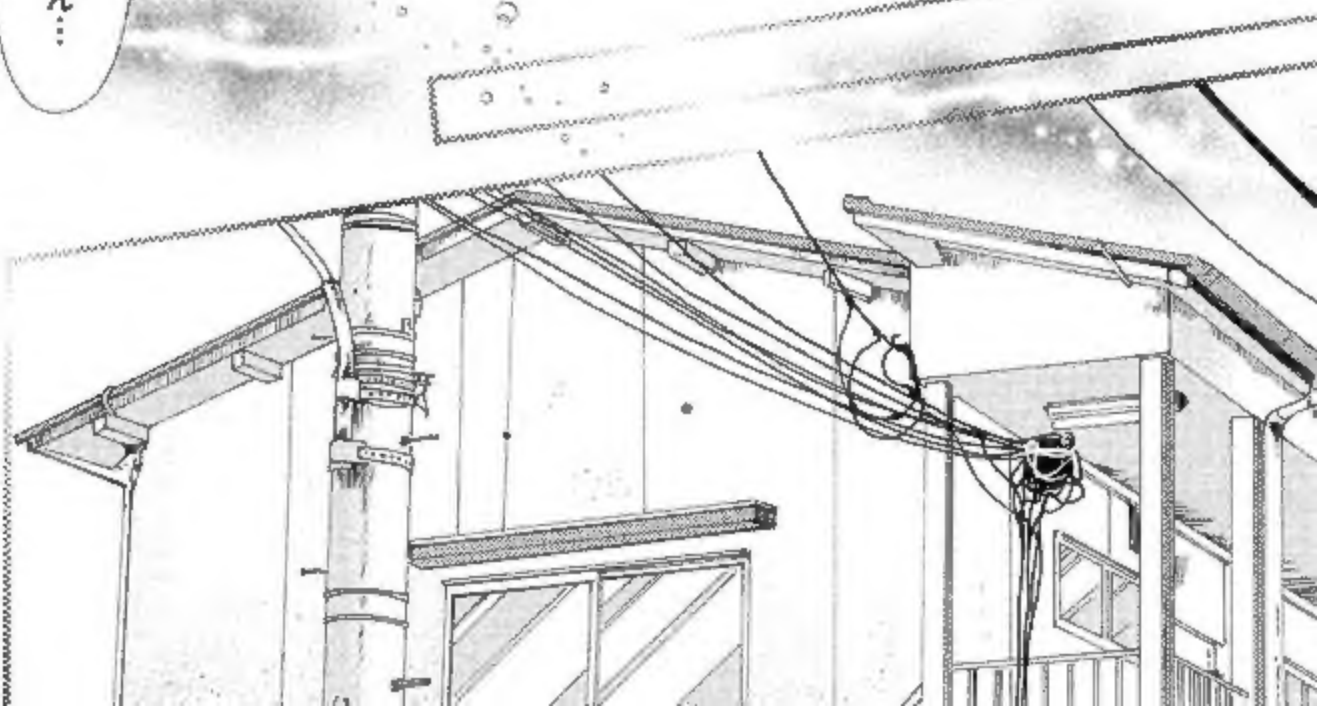
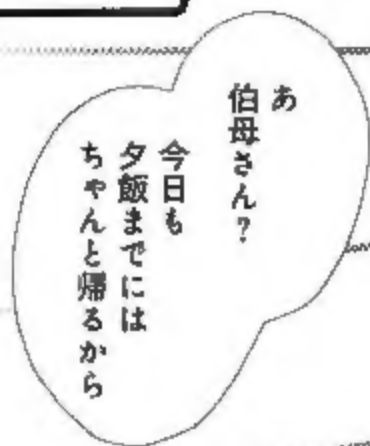
ちょっと 待ってなさい 今お風呂を わかすから…

伯父さん 伯母さん

今まで ごめんなさい

今まで 隠してきたこと 2人に対して 思ってたこと

全部話すから 聞いてくれる？

あのね…
キーンコーン
砂帆
もしかして
また あいつのところに
行くのか？

私が一方的に
好きなだけ

……
えマジか～ヤベー超意外
蒼乃さんやるじゃん
あはは
ピ
あ伯母さん？今日も夕飯までにはちゃんと帰るから
あははうんうん…

汐おじさん
きっと
みんな
それぞれが
溺れながら
必死に
もがいてる

そんな
惨めで
滑稽で
美しくない
欲望の海を
私はもう
怖がったりしない
ゴォオオオオ
溺れるなら
とことん
溺れてやるわ
「おわり」